

7 動物愛護について

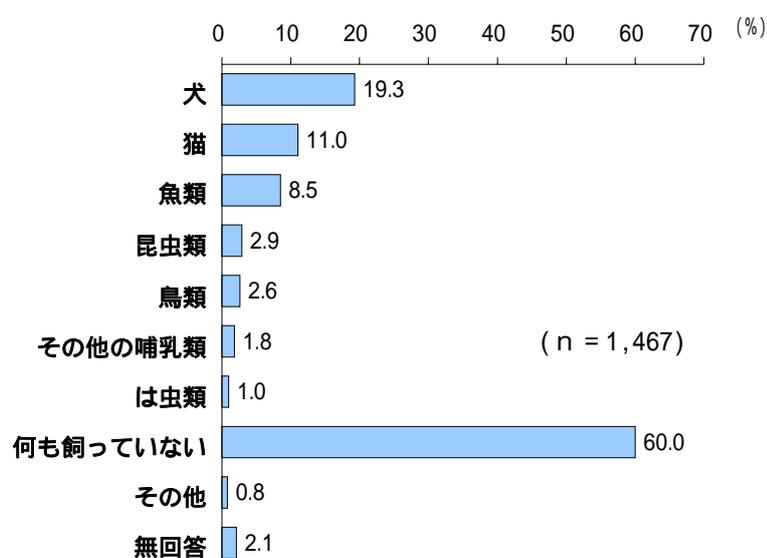
(1) ペットの有無

「犬」は約2割。「猫」と「魚類」が1割前後

問29 県では、動物愛護の啓発や動物の適正な取り扱いの普及等、動物愛護に係る業務を推進するうえで、県民の皆さんが動物（ペット）についてどのように考えているか知りたいと思います。

あなたはどのようなペットを飼っていますか。（はいくつでも）

<図表7 - 1> ペットの有無（複数回答）



飼っているペットをいくつでも選んでもらったところ、「何も飼っていない」(60.0%)が6割を占める。ペットを飼っている人の中では、「犬」(19.3%)が約2割で最も高く、「猫」(11.0%)と「魚類」(8.5%)が1割前後である。(図表7 - 1)

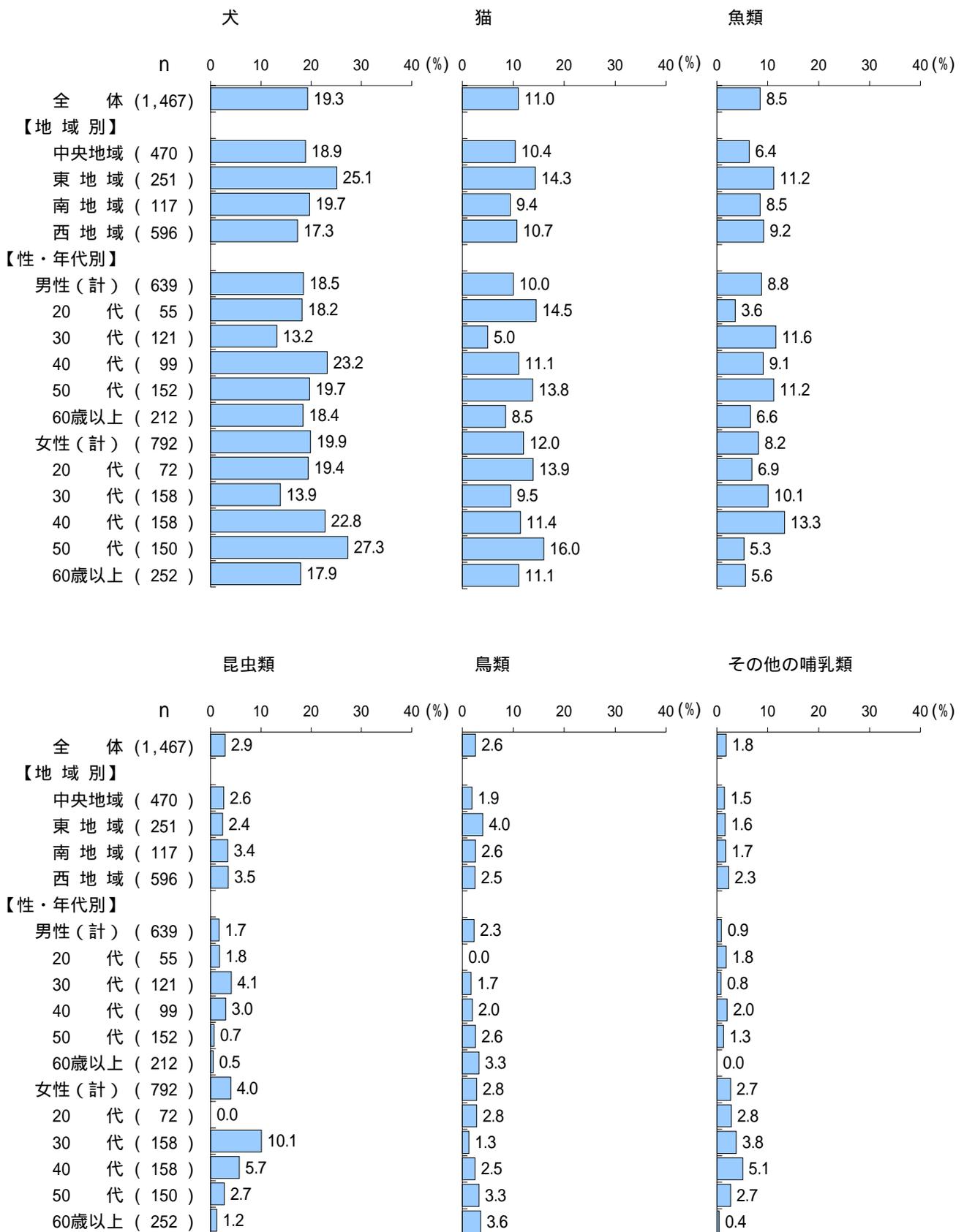
【地域別】

「犬」、「猫」、「魚類」の上位3項目を飼っている割合が最も高いのは、いずれも“東地域”である。(図表7 - 2)

【性・年代別】

「犬」は男性の40代(23.2%)、女性の40代(22.8%)と50代(27.3%)で2割を超え高くなっている。「猫」は男女とも20代と50代で高くなっており、1割台半ばである。(図表7 - 2)

<図表7 - 2> ペットの有無 / 地域別、性・年代別 (上位6項目)



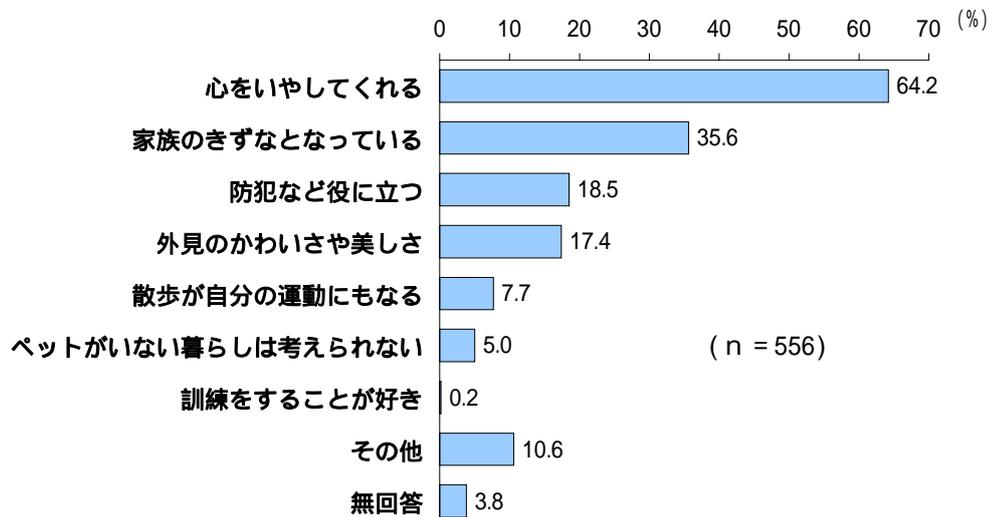
(1-1) ペットを飼っている理由

「心をいやしてくれる」が6割台半ば

(問29で「1」～「8」のいずれかをお答えの方に)

問29-1 あなたは、どういう理由でペットを飼っていますか。(は2つまで)

<図表7-3> ペットを飼っている理由(複数回答)



問29でペットを飼っていると回答した556人を対象に、飼っている理由を2つまで選んでもらったところ、「心をいやしてくれる」(64.2%)が6割台半ばで最も多かった。次いで、「家族のきずなとなっている」(35.6%)が3割台半ばで、「防犯など役に立つ」(18.5%)と「外見のかわいさや美しさ」(17.4%)が約2割となっている。(図表7-3)

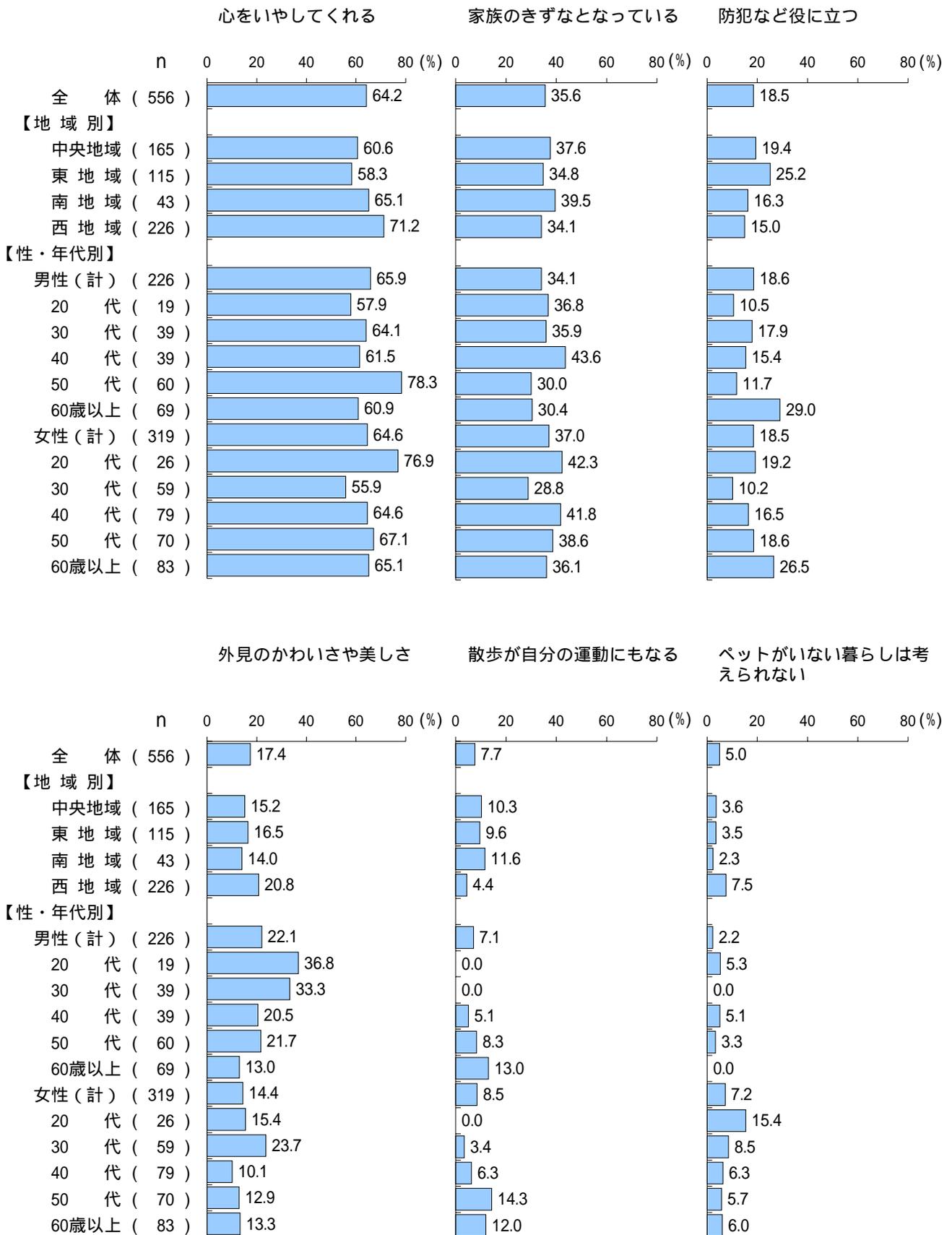
【地域別】

「心をいやしてくれる」は、「西地域」(71.2%)で7割を超え最も高く、「東地域」(58.3%)で約6割と低い。「家族のきずなとなっている」は「南地域」(39.5%)で約4割と最も高い。「防犯など役に立つ」は「東地域」(25.2%)で2割台半ばと最も高く、「西地域」(15.0%)で最も低い。(図表7-4)

【性・年代別】

「心をいやしてくれる」は、男性の50代(78.3%)、女性の20代(76.9%)で7割を超え、他の年代も5割を超えている。「家族のきずなとなっている」は、男性の40代(43.6%)、女性の20代(42.3%)で4割を超え、他の年代もおおむね3割を超えている。「防犯など役に立つ」は、男女とも60歳以上で2割を超え、他の年代も1割を超えている。「外見のかわいさや美しさ」は、男性は20代(36.8%)、30代(33.3%)で3割台半ば、女性は30代で(23.7%)で2割台半ば、他の年代も1割を超えている。(図表7-4)

<図表7 - 4> ペットを飼っている理由 / 地域別、性・年代別 (上位6項目)



(1 - 2) 犬の飼い方

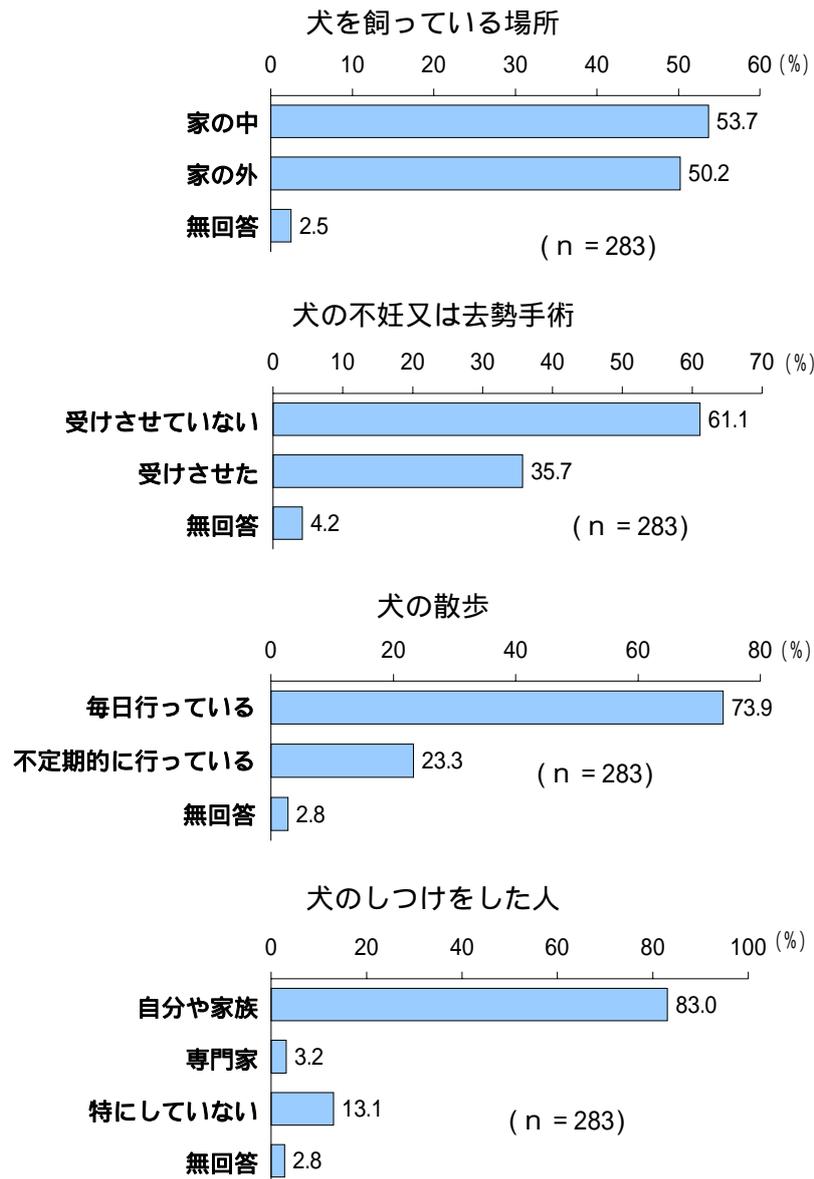
犬を飼っている場所は「家の中」が「家の外」よりやや多い

不妊又は去勢手術は「受けさせていない」、散歩は「毎日行っている」、しつけは「自分や家族」がした人が多数

(問29で「1 犬」とお答えの方に)

問29 - 2 犬をどのように飼っていますか。(はいくつでも)

<図表 7 - 5 > 犬の飼い方 (複数回答)



問 29 で犬を飼っていると回答した 283 人を対象に、犬の飼い方についていくつでも選んでもらったところ、犬を飼っている場所は、「家の中」(53.7%) が「家の外」(50.2%) をわずかに上回っている。犬の不妊又は去勢手術は、「受けさせていない」(61.1%) が 6 割を超えている。犬の散歩は、「毎日行っている」(73.9%) が 7 割台半ばである。犬のしつけをした人は、「自分や家族」(83.0%) が 8 割台半ばとなっている。「特にしていない」(13.1%) が 1 割台半ばで、「専門家」(3.2%) は少数になっている。(図表 7 - 5)

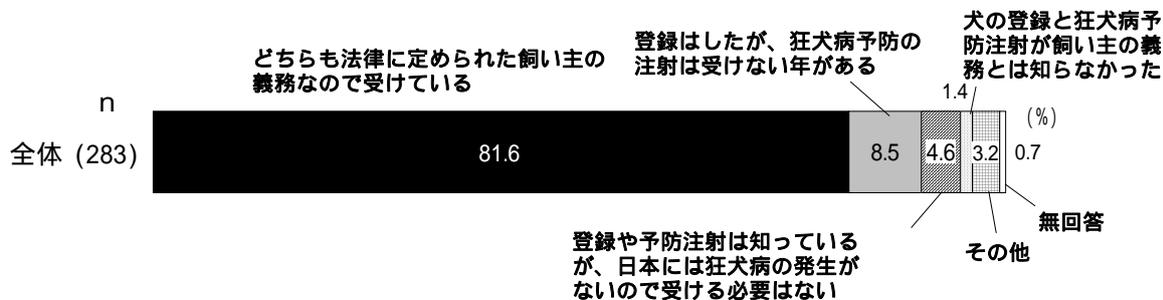
(1 - 3) 犬の登録や狂犬病予防注射の状況

「法律に定められた飼い主の義務なので受けている」が8割を超え最も多い

(問29で「1 犬」とお答えの方に)

問29 - 3 犬の登録や狂犬病予防注射はどうしていますか。(は1つ)

<図表 7 - 6 > 犬の登録や狂犬病予防注射の状況



問 29 で犬を飼っていると回答した 283 人を対象に、犬の登録や狂犬病予防注射の状況を聞いたところ、「どちらも法律に定められた飼い主の義務なので受けている」(81.6%) が 8 割を超え最も多い。一方、「登録はしたが、狂犬病予防の注射は受けない年がある」(8.5%)、「登録や予防注射は知っているが、日本には狂犬病の発生がないので受ける必要はない」(4.6%)、「犬の登録と狂犬病予防注射が飼い主の義務とは知らなかった」(1.4%) といった回答が少数ながらみられる。(図表 7 - 6)

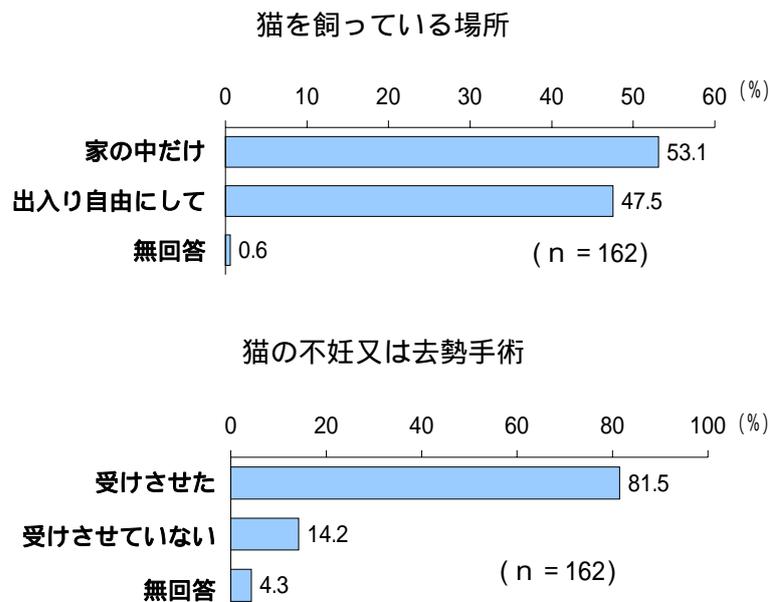
(1 - 4) 猫の飼い方

猫を飼っている場所は「家の中だけ」が5割台半ば、「出入り自由」は約5割
不妊又は去勢手術は「受けさせた」が8割を超える

(問29で「2 猫」とお答えの方に)

問29 - 4 猫は、どのように飼っていますか。(はいくつでも)

< 図表 7 - 7 > 猫の飼い方 (複数回答)



問 29 で猫を飼っていると回答した 162 人を対象に、猫の飼い方についていくつでも選んでもらったところ、猫を飼っている場所は、「家の中だけ」(53.1%) が 5 割台半ばで、「出入り自由にして」(47.5%) は約 5 割となっている。猫の不妊または去勢手術は、「受けさせた」(81.5%) が 8 割を超え、「受けさせていない」(14.2%) が 1 割台半ばになっている。(図表 7 - 7)

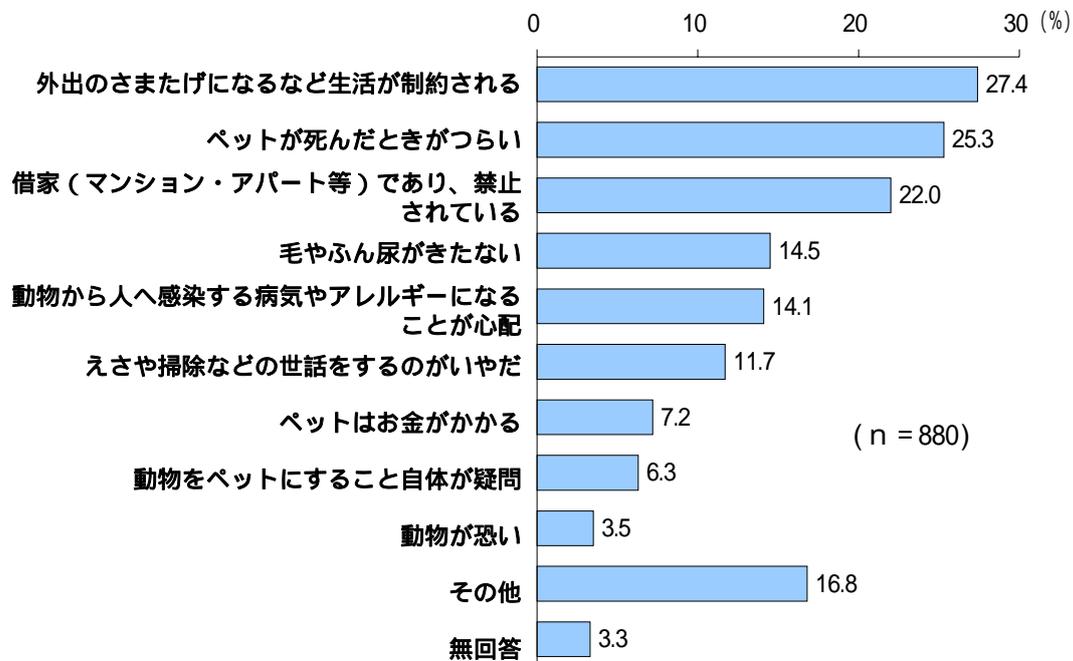
(1 - 5) ペットを飼っていない理由

「外出のさまたげになるなど生活が制約される」が約3割で最も高い

(問29で「9 何も飼っていない」とお答えの方に)

問29 - 5 あなたは、どういう理由でペットを飼っていないのですか。(は2つまで)

<図表7 - 8> ペットを飼っていない理由(複数回答)



問29でペットを「何も飼っていない」と回答した880人を対象に、飼っていない理由を2つまで選んでもらったところ、「外出のさまたげになるなど生活が制約される」(27.4%)が約3割で最も高くなっている。これに、「ペットが死んだときが辛い」(25.3%)、「借家(マンション・アパート等)であり、禁止されている」(22.0%)が2割を超え続いている。(図表7 - 8)

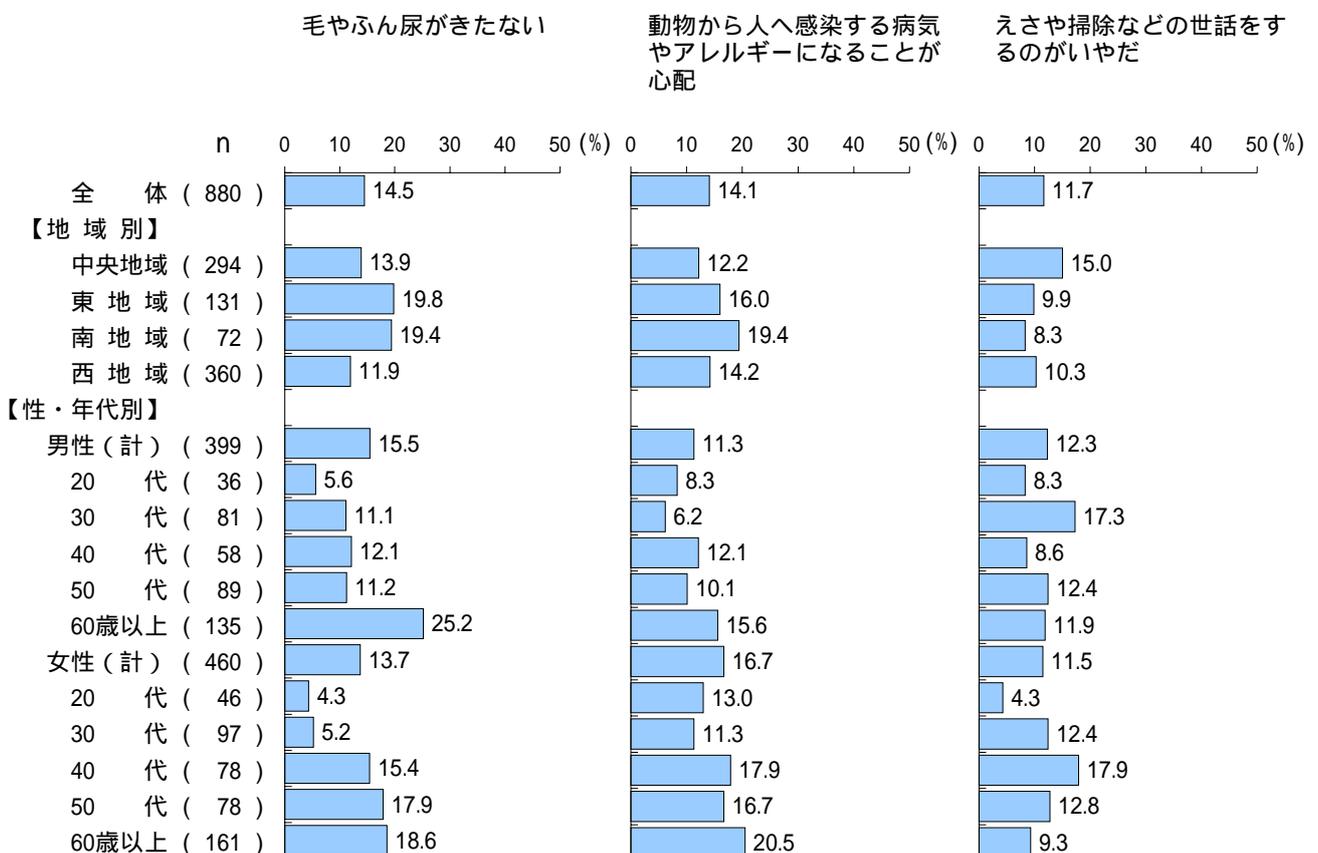
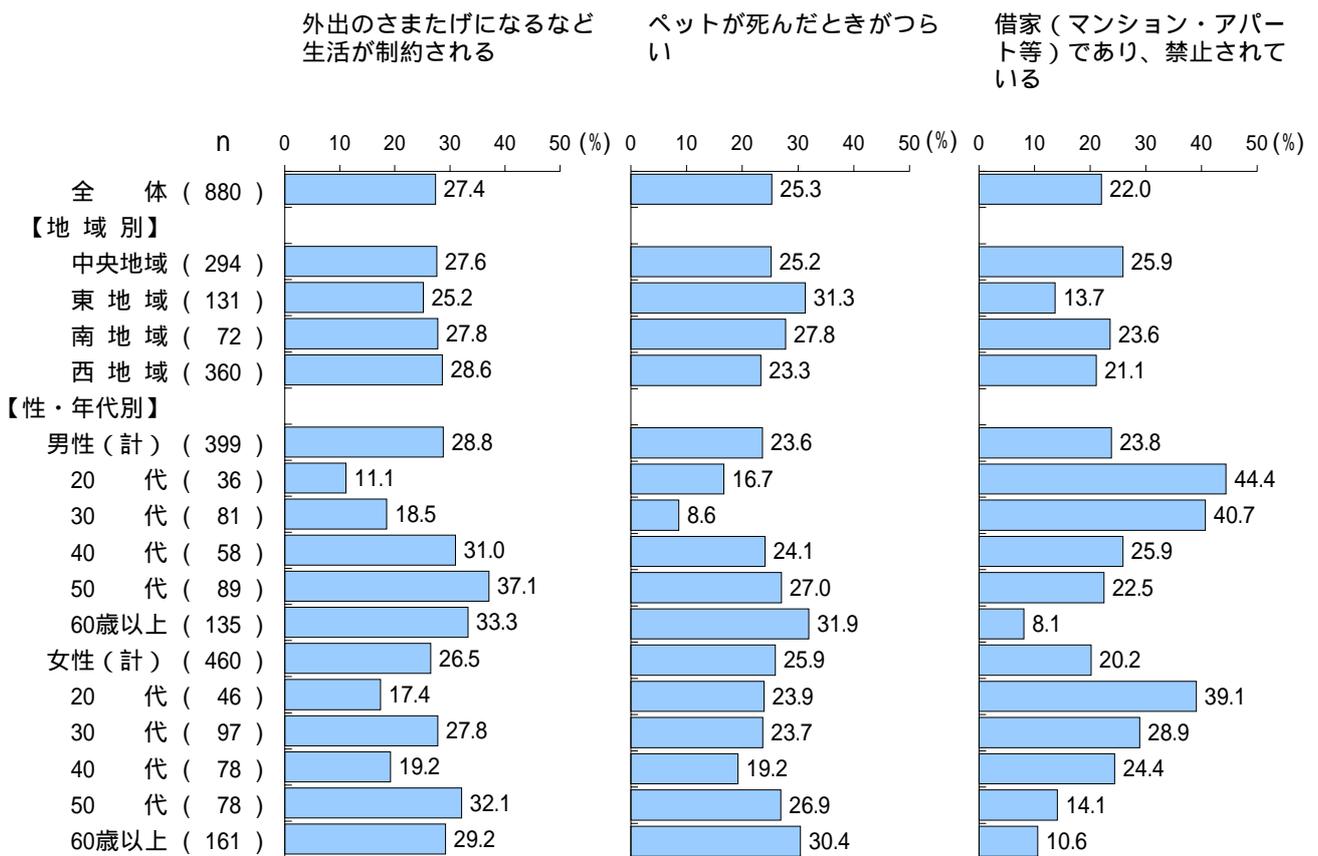
【地域別】

「外出のさまたげになるなど生活が制約される」は、各地域とも2割台後半でありあまり差はない。「ペットが死んだときが辛い」は「東地域」(31.3%)で3割を超え最も高く、「西地域」(23.3%)が最も低い。「借家(マンション・アパート等)であり、禁止されている」は「中央地域」(25.9%)が最も高く、「東地域」(13.7%)が最も低い。「毛やふん尿がきたない」、「動物から人へ感染する病気やアレルギーになることが心配」は、「東地域」と「南地域」が他地域より高い。「えさや掃除などの世話をするのがいやだ」は、「中央地域」(15.0%)が最も高くなっている。(図表7 - 9)

【性・年代別】

「外出のさまたげになるなど生活が制約される」は、40歳以上の男性及び女性の50代(32.1%)で3割を超え、特に男性50代(37.1%)では約4割で最も高い。「ペットが死んだときが辛い」は男女とも50歳以上で高くなっている。「借家(マンション・アパート等)であり、禁止されている」は、低い年代ほど高くなっており、特に、男性の20代(44.4%)と30代(40.7%)では4割を超えている。(図表7 - 9)

<図表7 - 9> ペットを飼っていない理由 / 地域別、性・年代別（上位6項目）

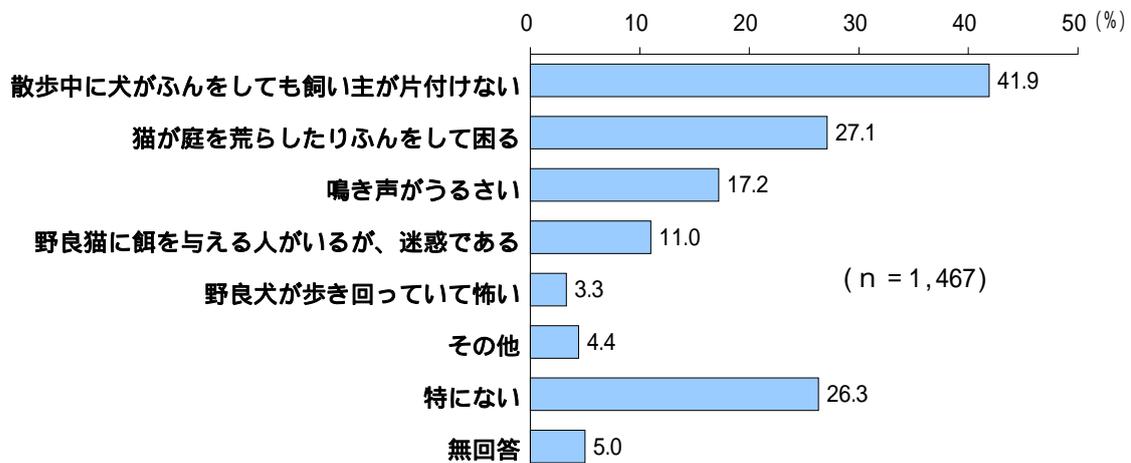


(2) 犬や猫による迷惑

「散歩中に犬がふんをしても飼い主が片付けない」が4割を超え最も高い

問30 あなたの周辺で犬や猫による生活への迷惑はありますか。(は2つまで)

<図表7-10> 犬や猫による迷惑(複数回答)



犬や猫による迷惑を2つまで選んでもらったところ、「散歩中に犬がふんをしても飼い主が片付けない」(41.9%)が4割を超え最も高い。次いで、「猫が庭を荒らしたりふんをして困る」(27.1%)が約3割、「鳴き声がうるさい」(17.2%)が約2割などとなっている。(図表7-10)

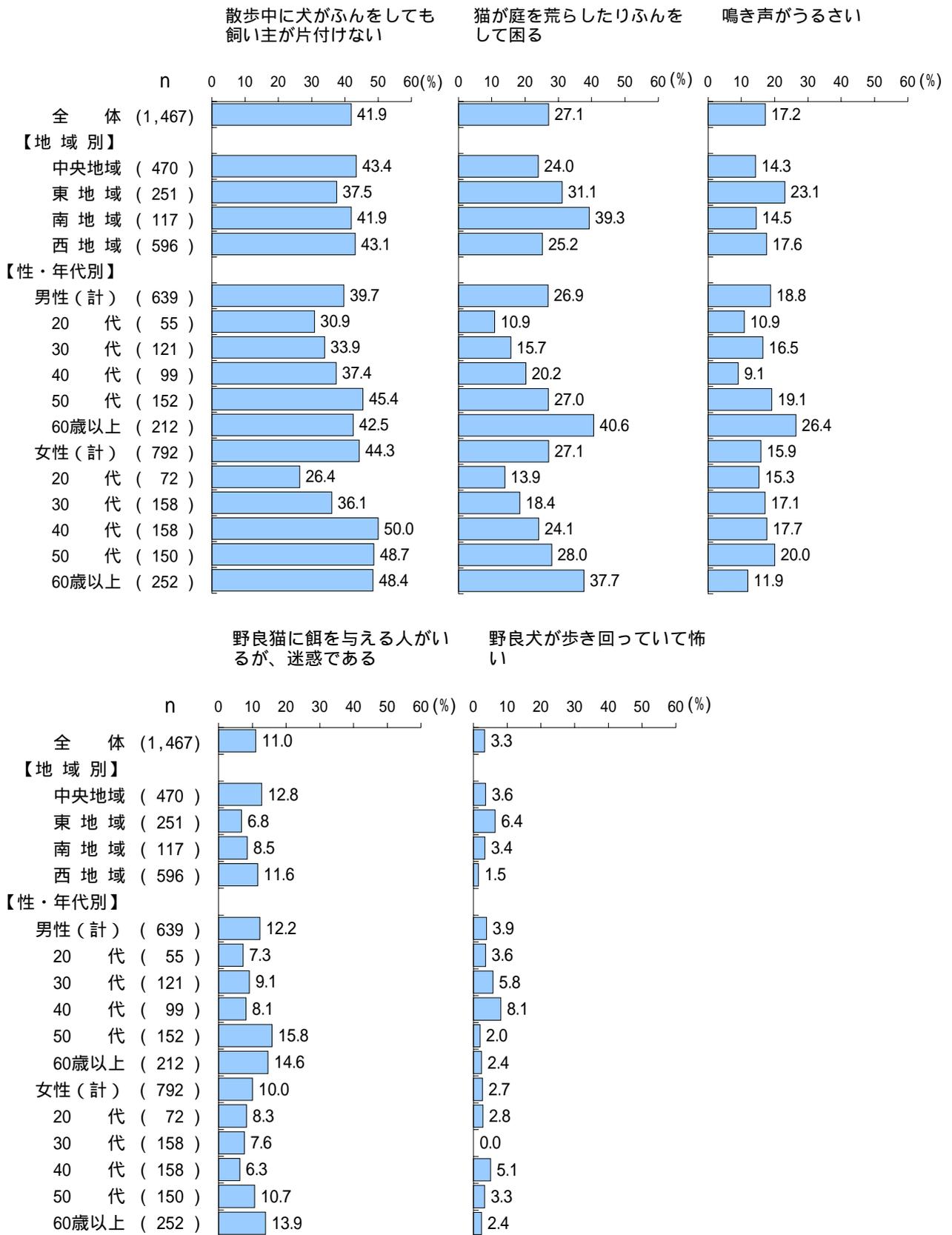
【地域別】

「散歩中に犬がふんをしても飼い主が片付けない」は“東地域”(37.5%)を除く地域は4割を超えている。「猫が庭を荒らしたりふんをして困る」は“南地域”(39.3%)で約4割と他の地域に比べて高くなっている。また、「鳴き声がうるさい」は“東地域”(23.1%)が他地域に比べ高い。(図表7-11)

【性・年代別】

「散歩中に犬がふんをしても飼い主が片付けない」は、男性の50歳以上及び女性の40歳以上で4割を超え高く、「猫が庭を荒らしたりふんをして困る」は、男女とも年代が上がるほど増加し、60歳以上で4割前後となっている。また、「鳴き声がうるさい」は、男性の60歳以上(26.4%)、女性の50代(20.0%)で2割以上と高い。(図表7-11)

<図表7 - 11> 犬や猫による迷惑 / 地域別、性・年代別

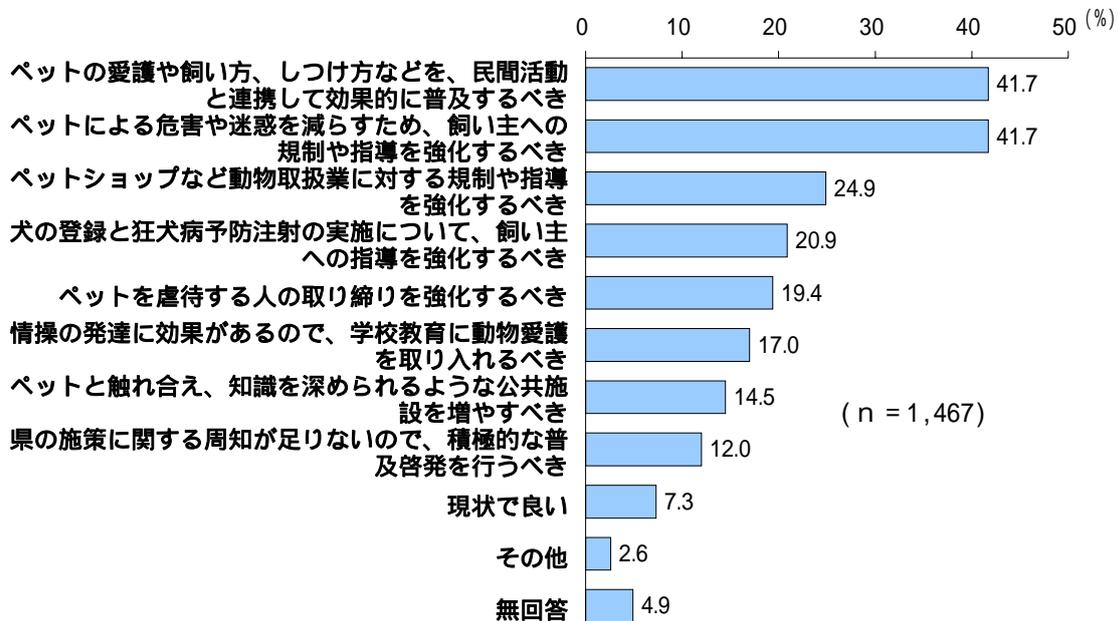


(3) ペット動物に関して行政が重点とすべきもの

「ペットの愛護や飼い方、しつけ方などを、民間活動と連携して効果的に普及するべき」と「ペットによる危害や迷惑を減らすため、飼い主への規制や指導を強化するべき」が4割を超える

問31 県のペット動物に関する行政は、何を重点とすべきと思いますか。(は3つまで)

<図表7-12> ペット動物に関して行政が重点とすべきもの(複数回答)



ペット動物に関して行政が重点とすべきものを3つまで選んでもらったところ、「ペットの愛護や飼い方、しつけ方などを、民間活動と連携して効果的に普及するべき」と「ペットによる危害や迷惑を減らすため、飼い主への規制や指導を強化するべき」(ともに41.7%)が4割を超えている。次いで、「ペットショップなど動物取扱業に対する規制や指導を強化するべき」(24.9%)が2割台半ばで、「犬の登録と狂犬病予防注射の実施について、飼い主への指導を強化するべき」(20.9%)と「ペットを虐待する人の取り締りを強化するべき」(19.4%)が2割前後となっている。(図表7-12)

【地域別】

上位2項目での地域による大きな違いはみられないが、「ペットショップなど動物取扱業に対する規制や指導を強化するべき」は、「東地域」(27.9%)と「西地域」(27.2%)で他地域より高くなっている。(図表7-13)

【性・年代別】

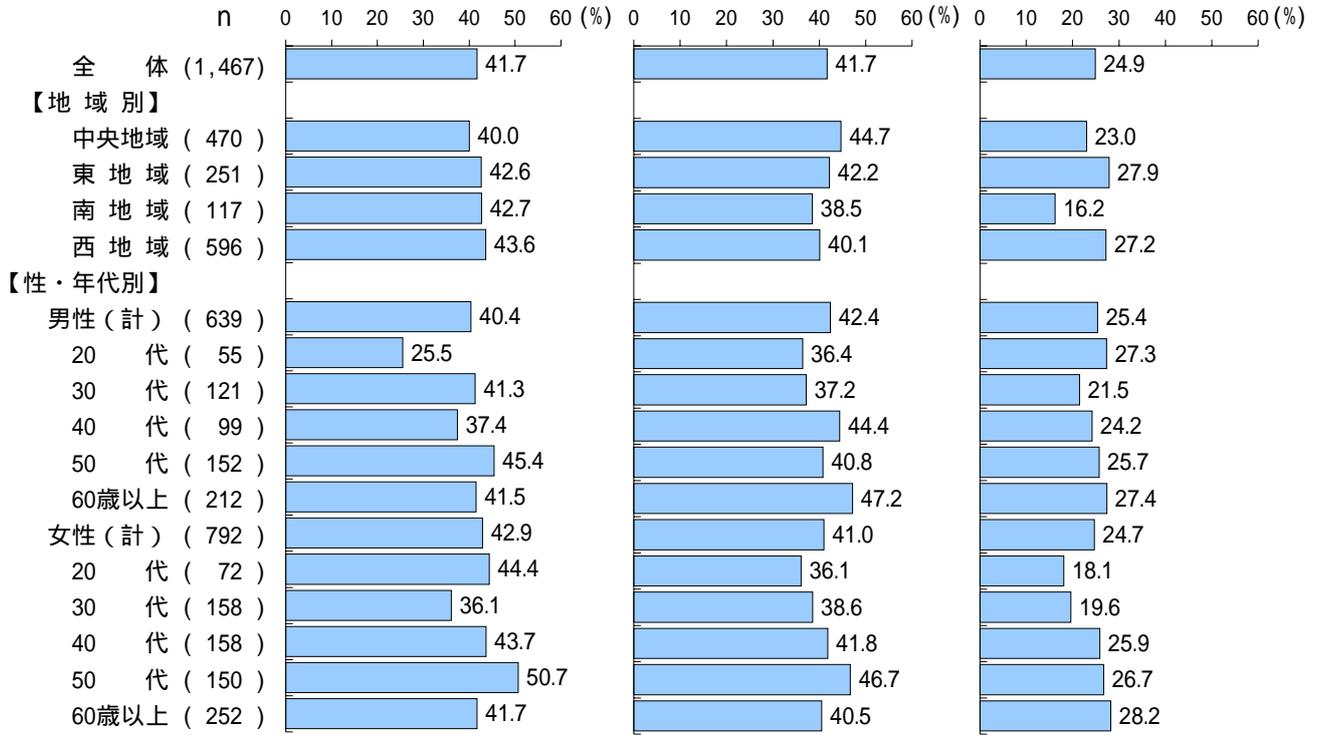
「ペットの愛護や飼い方、しつけ方などを、民間活動と連携して効果的に普及するべき」は女性の50代(50.7%)で5割と最も高く、他の年代はおおむね4割前後だが、男性の20代(25.5%)のみ低くなっている。「ペットによる危害や迷惑を減らすため、飼い主への規制や指導を強化するべき」は、男性の60歳以上(47.2%)と女性の50代(46.7%)で高く、他の年代はおおむね4割前後となっている。「ペットショップなど動物取扱業に対する規制や指導を強化するべき」は、女性の20代(18.1%)と30代(19.6%)で約2割だが、男女とも年代が上がるほど高くなる傾向がみられる。「犬の登録と狂犬病予防注射の実施について、飼い主への指導を強化するべき」、「ペットを虐待する人の取り締りを強化するべき」は、男女の20代が2割台半ばから3割台半ばと目立って高くなっている。(図表7-13)

<図表7 - 13> ペット動物に関して行政が重点とすべきもの / 地域別、性・年代別(上位6項目)

ペットの愛護や飼い方・しつけ方などを、民間活動と連携して効果的に普及すべき

ペットによる危害や迷惑を減らすため、飼い主への規制や指導を強化すべき

ペットショップなど動物取扱業に対する規制や指導を強化すべき



犬の登録と狂犬病予防注射の実施について、飼い主への指導を強化すべき

ペットを虐待する人の取り締りを強化すべき

情操の発達に効果があるので、学校教育に動物愛護を取り入れるべき

